

グローバル・ガバナンス学会
第14回研究大会

プログラム（暫定版）

2021年11月13日・14日

（全面的にオンライン開催。正式なプログラムの確定版は10月末頃に配信
予定です。Zoom情報、要旨などはそちらをご参照ください）

第1日目 11月13日（土） 13：00～15：00 歴代会長による特別セッション

主旨：歴代会長によるお話と議論を通じて、グローバル・ガバナンス研究の過去、現在、未来を論じ、そしてグローバル・ガバナンス学会の未来を展望する。

プログラム：

- 1) オープニング（3分）：趣旨説明とパネリストの紹介
- 2) 第1ラウンド
 - * 初代会長：学会創設の想い、できたこと、できなかったこと
 - * 第2、3-4、5代会長：会長就任時の想い、できたこと、できなかったこと
- 3) 第2ラウンド：グローバル・ガバナンス研究の過去、現在、未来
- 4) 第3ラウンド：グローバル・ガバナンス学会に期待すること
- 5) 質疑応答・ディスカッション
- 6) クロージング

パネリスト：

- 山本武彦（初代会長、早稲田大学名誉教授）
- 大矢根聡（第2代会長、同志社大学教授）
- 渡邊啓貴（第3代、4代会長、帝京大学教授）
- 福田耕治（第5代会長、早稲田大学教授）

モデレーター：上村雄彦（第5代事務局長、横浜市立大学教授）

15：30～18：00 全体セッション1：新型コロナ危機後におけるSDGs対応 이슈の複合と国際機構・国家・企業・NGOの役割－保健、経済、環境、人権

主旨：新型コロナのパンデミックはグローバルな保健の問題であると同時に、各国の政策的対応の在り方、経済や人権、環境、開発、安全保障の問題でもある。コロナ危機を通じて国家の役割が再認識され、諸政策はGDPの低落や雇用の収縮を緩和したが、行動制限・社会的距離をとる措置が緩和されると感染拡大は再び勢いを増す悪循環に陥り、SDGsの課

題も山積している。危機のなかでデジタル関連産業は発展し、国際機構の機能不全、富裕国と貧困国における格差問題の顕在化する現在、パンデミック後を見据えたSDGsの政策対応にあたり、国際機構・主権国家・企業等はどのような役割を果たせるのだろうか。優先する価値の選択や企業との協力・調整のガバナンス・モードのあり方について検討する。(以下は仮題)

司会：福田耕治（早稲田大学）

詫摩佳代（東京都立大学）

新型コロナ危機と WHO の対応

首藤もと子（筑波大学）

新型コロナ危機と COVAX の役割

太田 宏（早稲田大学）

新型コロナ危機後のグリーン・リカバリーと SDGs の課題 — エネルギー転換のガバナンス

土屋大洋（慶応義塾大学）

コロナ禍におけるデジタル経済のセキュリティーと SDGs の課題

討論者：小尾美千代（南山大学）

臼井陽一郎（新潟国際情報大学）

福田八寿絵（鈴鹿医療科学大学）

第2日目 11月14日（日）10：00~12：00 部会1 自由論題セッション

司会兼討論：小松志朗（山梨大学）

井原伸浩（名古屋大学）

POFMAにおける「虚偽」および「公共の利益」の定義

和田龍太（東海大学）

イギリスによるインド太平洋地域への「傾斜」

高島亜紗子（東京大学大学院特任研究員）、中村長史（東京大学大学院特任助教）

民主主義国の海外派兵—対内正当化『成功』要因・試論

加藤絵美（横浜市立大学大学院）

国際消費者問題の解決に向けたグローバル時代の消費者保護政策

討論者：土屋大洋（慶応義塾大学）

前嶋和弘（上智大学）

10：00~12：00 部会2 古典からのグローバル・ガバナンス論再考

——「建設的多元主義」をめざして

主旨：近年、国際関係理論をめぐる大きな論争が見られなくなっている。ときに「国際関係理論の終わり(the end of International Relations theory?)」が問われる今日、公正なグローバル・ガバナンスの在り方を模索するに際して、多様な理論研究を通じた実りある論争を可能にする必要があるように見受けられる。そのような方向性をかりに「建設的多元主義」と呼ぶとすれば、それはどのような理論的研究によってなされるのか。これまで当該学会ではそれほど顧みられることのなかった、いくつかの古典的業績をもとにその可能性をさぐりたい。

司会：臼井陽一郎（新潟国際情報大学）

奥迫元（早稲田大学）

古典的現実主義の今日的意義と可能性——建設的多元主義を求めて

岸野浩一（関西外国語大学）

古典によるグローバル政治経済学の再考——デイヴィッド・ヒュームの哲学と思想
を中心として

荻谷千尋（金沢大学）

諸国家の嫉妬・独立・同盟：エドマンド・バークの国際政治思想

討論：中野涼子（金沢大学）

12：20~14：00 総会、懇親会 [オンライン]

14 : 15~16 : 45 全体セッション2 : 「インド太平洋」安全保障ガバナンスの欧州への含意

主旨 : 米中の覇権争いの戦略的空間として重要性を増す「インド太平洋」地域において、欧州諸国の関心・関与が高まっている。英国が外交・安全保障戦略で同地域への空母の派遣を明記したほか、EU主要国の仏は既に軍艦を派遣し、独も将来的な同地域での軍事演習への参加を表明している。インド太平洋地域の安全保障ガバナンスが地理的に離れた欧州にどのような意味を持つのか、安全保障・政治・経済の観点から総合的に検討する。

(以下、仮題)

司会 : 上村雄彦 (横浜市立大学)

中村英俊 (早稲田大学)

グローバル・ブリテンの理想と現実 : イギリスのEU離脱と「インド太平洋」政策

渡邊啓貴 (帝京大学)

フランスのインド太平洋戦略

中村登志哉 (名古屋大学)

ドイツのインド太平洋戦略

小林正英 (尚美学園大学)

EU のインド太平洋戦略

討論者 : 臼井実穂子 (駒沢女子大学)

遠藤乾 (北海道大学)